可茂農林事務所の普及活動状況　（令和８年 10 月 30 日現在）

新たな担い手の確保

■白川町有機の里づくり協議会　農業への関心を参入につなぐ実践講座を開催

白川町有機の里づくり協議会は、本年度、アグリパーク重点推進モデル事業に採択され、黒川地区の農業研修施設「黒川 Maruke」を拠点に、農産物の集荷・販売や体験・交流活動に取り組んでいる。

この取り組みの一環として、９月から農業への参入を目指す人を対象とした実践講座「yomoya-manavi」（全６回）を開講している。10 月 17 日に開催された第２回講座「無肥料栽培で挑戦する家庭菜園」には、黒川地区への移住者や移住予定者など、半農半Ｘによる農的な暮らしに関心を持つ５人が参加した。当日は、自然栽培に関する講義と農場見学が行われ、参加者は作物の生育状況や栽培管理について理解を深めた。



【農場見学の様子】

協議会では、本事業を通じて、有機農業に関する豊富な知識や経験を生かした情報発信や体験・交流活動を展開しており、農業に関心を持つ人が段階的に参入できる支援体制の構築が進められている。

農林事務所では、今後も同協議会の活動を支援し、多様な農業の担い手の育成・確保に向けた取り組みを推進していく。

（地域支援第二係）

潜在力をフル活用した生産強化

■夏秋トマト　気象変動に強い夏秋トマト産地づくり

夏秋トマト生産農家で組織する「美濃白川夏秋トマト部会」は、高温期の栽培条件が厳しい白川町・東白川村で栽培を行っており、近年、栽培が減少しつつある桃太郎系品種にこだわり、県内の量販店を中心に販売を行っている。

これまで農林事務所は、高温時の裂果対策や草勢管理技術の確立など、高温条件下でも安定生産を実現するための技術導入を進め、その結果、令和７年産では部会平均単収 10ｔを達成した。



【トマト栽培の様子】

令和８年産は、導入苗の生育不良による収穫開始の遅れに加え、６月および９月の日照不足や長雨により病害が多発するなど厳しい栽培環境となった。しかし、適切な管理による草勢回復に努めた結果、７月下旬以降は前年を上回る出荷ペースとなり、最終的には前年並みの出荷量を確保した。

これらのことから、高温対策技術は高温条件下だけでなく、不安定な気象条件下においても生産の安定化に寄与する有効な技術であることが確認された。

農林事務所では今後も、「美濃白川夏秋トマト部会」の産地維持・発展に向けた活動を支援し、地域農業の振興を推進していく。

（園芸産地支援係）

新たな流通ルートの開拓、販路拡大

■水稲・清流のめぐみ研究会　清流のめぐみの販売ＰＲを実施

今年６月に発足した「清流のめぐみ研究会」は、可茂地域で今年から本格的に生産を開始した岐阜県育成の高温耐性品種「清流のめぐみ」の認知度向上を目的に、岐阜県農業フェスティバルにて販売ＰＲを行った。

農林事務所は出展機会を創出し、出展計画書の作成や販売の支援等を行った。当日は、来場者へ販促チラシの配布や試食販売を行い、「清流のめぐみ」の特徴や食味の良さを伝え、来場者からは食味や栽培方法に関する質問が寄せられるなど、高い関心と好評ぶりがうかがえた。また、生産者自らが店頭に立ち説明したことで、「清流のめぐみ」の魅力や栽培へのこだわりを伝えることができ、消費者の反応を知る貴重な機会となった。



【販売ＰＲの様子】

農林事務所では、今後も研究会と連携し、「清流のめぐみ」の安定生産と認知度向上、販路拡大に向けた支援を継続していく。

（地域支援第一係）